

ゴジカラ村

みちくさをゆるせる心のあるところ



ユニークな多世代交流自然村づくりの取組みとして知られるゴジカラ村。
毎日、たくさんの人が雑木林のデコボコ道を通ってやってきます。中には、「道をアスファルトにして」と言っては、さっと来てさっと帰っていく人もいます。そうした大人たちを、ゴジカラ村代表・吉田一平さんは「時間に追われる国の人」と呼びます。他方で、ゆっくりと毎日を暮らしているお年寄りたちや子どもたちや少しの大人といった「時間に追われない国の人」は、喧嘩をしたり助け合ったりしながら、あちらで虫を見つけ、こちらで草を摘み、泥んこの水たまりに目を輝かせているのだ・・・と。

同じ道なのに、どうして違ってくるのでしょうか。そして、幸せな生活とは何なのでしょう。ゴジカラ村づくりにかけた想いをお話していただきました。



吉田一平氏（ゴジカラ村代表）

1946年長久手町生まれ。
サラリーマン時代を経て、消防団入り。「感謝される」喜びを知る一方で、失われていく雑木林と地域のつながりを目の当たりにし、それらを守り、再生しようと幼稚園を皮切りに、特養、デイサービス、専門学校、ほどほど横丁などを開設。
2004年にゴジカラ村役場株式会社を創設し、多世代交流自然村を具現化する知恵を集めている。いつも未完成で時間に追われないおらかな暮らしの実現を目指している。

このレポートは、2007年9月15日に、愛知県「まちの達人 活動推進事業」の一環で行われた、吉田一平氏の講演をまとめたものです。

講演 『ゴジカラ村』 みちくさをゆるせる心のあるところ

吉田一平 ゴジカラ村代表

「ゴジカラ村」へお越しいただきまして、ありがとうございました。今日は施設のお話と、そうした施設を運営する中で感じたこと、これからしたいこと、悩んでいることを少しお話させていただけたらと思います。

ここ全体は「ゴジカラ村」という名称ですが、その中には色々な施設があります。

まず、小さな子どもたちの託児所があります。幼稚園の先生の経験がある方などが自分たちで経営しています。遊びたい子どもを預かる場所ですね。

この奥が特別養護老人ホームで、およそ80人、要介護3、4、5くらいの方が入っていらっしゃいます。この8月の末に21回目の合同法要を、ここで行いました。250人くらいの方が、今までお亡くなりになっておられます。

その向こうに小さな小屋があります。「きねづかシェアリング部」といって、昔とった杵柄を使って退職された人たちが20人くらい活躍されています。ここに来ておられて、大体3時間単位で毎日お仕事をしています。翌月の仕事を登録して受付をやってもらったり、車椅子を洗ってもらったり、デイサービスのバスを運転してもらったりですね、それ以外、仕事も、いろんな軽微の仕事も含めて、色々なことをやってもらっているんです。色々な方が登録しておいでになっています。

社会福祉法人愛知たいようの杜 ゴジカラ村	
住所	〒480-1311 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字根嶽 29-4
電話等	法人本部電話 0561-62-5151 http://gojikaramura.jp/show/index
理事長	吉田 一平
法人施設	在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター愛知たいようの杜、グループホーム嬉楽家、グループホームよりみち、ケアハウスゴジカラ村、デイサービスセンターゴジカラ村、訪問看護ステーションふれあい、ヘルパーステーションひだまり、他世代交流住宅・ぼちぼち長屋、デイサービスセンター平庵、デイサービスやさしいところ、たいよう幼稚園、もりのようちえん、託児所・コロボックル、愛知総合看護福祉専門学校、ゴジカラ村役場株式会社
利用者	特別養護老人ホーム80人、ショートステイ25人、デイサービスセンター75人(3カ所合計)、グループホーム(2カ所合計)17人、ケアハウス50人等
職員	約180人(介護職員110人、生活相談員12人、看護職員20人、ケアマネージャー12人、事務職員18人等)

もりのようちえん

向こうに隠れていますが「もりのようちえん」というのがありまして、約 190 人の子どもたちが来ています。これは、ひたすら遊ぶだけの幼稚園です。カリキュラムにしばられず、弁当持ちで来て、ぼんとほかって、山の中を毎日走り回っている幼稚園。そういう幼稚園があったらよいということで作りました。

ゴジカラ村役場

そこへいく手前の駐車場の中に「ゴジカラ村役場」があります。「役場」といっても、やさしい役場じゃなくて、「冷たい役場」を作ることを目指しています。

つまり、私たちは「不便で、手間隙かかって、わずらわしくて、思うようにならない」という村を作りたいと思っているんです。何もかも役場に税金払って役場の人何もかもやっちゃって、私らがただサービスを受けるだけじゃなくて。役場に税金払わんでもいい代わりに、自分で仕事をやるというふうにしたいのです。何もかもやっちゃうと、結局なんていうか、役割がなくなっちゃう。薪を火にくべて若いお母さんたちがご飯炊いたりすると、10 人くらいかかって一緒にご飯を炊いておられるんですね。つまり、たくさんの役割を作るには、もっと不便な世の中がよいのです。でも、そんな何もしない役場とみんなの関係は、現実の町は許してくれないものですから、そういうのがよいという人だけ、この村に住んでもらおうという、そういう発想で進めています。

役場は、今駐車場になっていますが、そこに 30、40 軒戸建の建物を建てて、そこは自分たちでゴミを捨てて、自分たちで片付けて、自分たちで何もかもやるという形にしたいと思っています。



**たくさんの役割をつくるには、もっと不便な世の中がよい。
そういうのがよいという人が住める村をつくろうとした。**

ケアハウス

もうちょっと下へいきますと、60 歳以上の方で自炊のできる方が住んでいらっしゃるケアハウスが 50 軒あります。でも自炊をしない人もいます。というのは、名東区にある居酒屋の人に飲み屋（食堂）をしていただいているので、「夕方ちょっと刺身でも」というと、刺身を作ってくれる…そういう飲み屋の入ったケアハウスだからです。

そのすぐ下には、2 ヶ月ほど前から、陶器工場を誘致しました。私の仲間で、瀬戸で陶器のお雛様とかお地蔵さんを作ってお土産屋さんをしていた人を連れてきました。窯も 2 台持ってきて、そこで絵付けなどをしています。そういう人に来てもらえれば、そこでまた役割とか、色々なことが生まれそうだということで誘致しました。

愛知総合看護福祉専門学校

介護福祉士とか、看護師になるための専門学校がございまして、約 200 人在籍しています。看護師や保健士の資格が取れる学校です。全国で 8 校目だと思います。

古民家

ゴジカラ村の中には、古い民家が 3 軒あります。今いる「ほとぎ」は足助から移築して、200 年位たっています。幼稚園の中にあるものは 400 年位前のものといわれています。もうひとつの陶器工場のところのものが 150 年位前のものです。

なぜ、こんなものを誘致したかという、こうやってみんながいろんな使い方をして、いろんな人がたくさん集まってきてもらえるからです。「ゴジカラ村」では、約 800 人の人を迎え入れることができます。山の中にあちこちの建物で、アリンコが入っていったみたいでわからんけども、たくさんの方がこの村におられるんですね。

ほどほど横丁

他にも、町の中に、グループホームや託児所が一緒になっているところがあり、藤ヶ丘のところは、一階には寝たきりの方が 13 人暮らし、二階に OL が 4 人住んで、ファミリーが 1 軒住んで、と混在して住んでいるところもあるんですね。そこでは、車いすで飯食って、上を見ると OL の部屋が、こう上に見えるようなしくみです。響慶を買うかもしれませんが、こうして女の方が住んでいると、今度は男の子が遊びに来てくれるんです。数がいろんな人が増えるといいだろうと思って作ったんですね。



雑木林の中に、色々な人が集える場所があるゴジカラ村

家族が泊まれるホテル

最近、新たに作ったのは、ホテルです。ショートステイは今、この中にも 20 床ありますが、普通、高齢者がショートステイする施設は、家族は泊まれないのですね、どうしても家族に用事ができた、旅行に行く、介護で疲れたという時に、おじいさん・おばあさんを入れちゃう施設はあるのですが、反対に娘さんや嫁さんの方は泊まれるかという、泊まれないんです。で、本人が泊まりたいところを作ろうと思ひまして、作ったんです。

本人が泊まりたいとはどういうところかという、こういうことなんです。夜、飯食いながら夫婦で会話して、嫁さんがだんな（つまりおばあさんの息子）「夕べいいところ行ったね」という話をしとく。そうすると、日ごろ聞こえないばあさんが、じっと聞いておって、実の娘のところへ電話して、「嫁さんたちがええところ泊まった。私も泊まりたい」という。すると、実の娘がそれを聞いて、「じゃあ、調べてくるわ」といったらホテルだった。「これだったら私も泊まりたい」といって、娘さんも旦那さんと泊まりに行くときに、ついでに、実のお母さんを嫁さんに連れてきてもらって泊まると。そうすると娘夫婦は、夜はリニモの「はなみずき駅」から地下鉄に乗って、名古屋へ飲みに行くことができる。おばあさんはうちの職員が介護しているわけです。コテージだもんですから、自分たちは黙って部屋へ帰っていけばいいんですね。次の日に、娘は嫁さんに、「おばあさん、旅行に連れて行ったよ」と言っって、そうすると嫁さんから小遣いが娘に渡るってなもんで、娘夫婦も楽しいし、おばあさんも楽しいし、嫁たちも楽しかったというわけです。

それでホテルのようにしたんですね。だから、ツインがあったり、ダブルがあったり、シングルがあったり、部屋も全部変えたんです。「ホテル」「ルームチャージ」とか書いてあると、「ホテルへいける」と思えて楽しく感じる。

でもですね、実は日本には法律がありまして、町の中にホテルを作っちゃいかん。「ルームチャージ」ではなく、「『要介護プラン』とか『要支援 1 プラン』という料金にしろ」と言われる。でもね、そんなところ入りたくないもんね。でも、そのところが、役所の人がわからない。だから今、困っているんですけどね。

次は、猫の顔ほどの畑つきのガーデンを作っていきたいなと思ひています。

こんなことで、幼稚園がもうひとつ町の中にありますんで、ゴジカラ村には全部で 1200 ~ 1300 人の住人が住んでおられます。幼稚園初めて 26 年くらいですが、こんなところになっています。



<要介護プラン>ではなく、<ルームチャージ>となっている「ホテルに行ける」「夜は都心へ」となれば、おばあさんも家族も楽しくなる

さぼっとる人を大事にする時代が来た

私はサラリーマンを15年位やっておりまして、時間に追われる国にありました。で、幼稚園の子どもに出会うと、もう本当に生き生きと、山の中で遊んでたんですね。どの子どもも慌てさせなければ、みんなすばらしいんです。お母さんたちに「とにかく3年間思い切って遊ばせてやってほしい」と言いました。極端な話、6歳になったら死ぬかもしれないから3年間だけでも、「生きているのはこんなに面白いか」というところを作りましたので、どうぞと。でもお母さん方は、「でも、学校へ行ったら」、「でも、大きくなったら」と、いつも心配されるんです。

また、初めの幼稚園のよこっちょに、古い民家をつくって、そこにお年寄りの方に、来ていただいて遊んでいただいとったんです。そしたら、月日が経てばだんだん体が不自由になって来られなくなって、この建物を老人ホームにしたらという話があって、あちこち見て回り、この特別養護老人ホームを作りました。21年前のお話です。で、私が思ったのは、寝たきりの方で、食事もできなくて、歩くこともできなくて、何もできない。そういう方たちに出会いまして、私が思ったのは、サラリーマンでしたから「さぼっとる」と。言い方が悪いんですが、働く人から見たら、ぜんぜん動かせない、服も替えられない、歩くこともできないというのは、「何にもしないというのはさぼっとる」というわけです。

同時に、思ったのは、「さぼっとる人を大事にしていこうという時代が来た」ということでした。毎日遊んでいる子どもたちや、お年寄りをずっと見ておって、こんなことを思ったんですよ。

もめごとが起こる環境の中でイキイキする

どういうことかという、私たちは、子どものときは鶏で言うとひよこだったですね。野っ原で遊んでいたひよこがだんだん大きくなって、訓練させられると、鶏のケージの中に入れられて、そこで餌をもらってそこで卵をどんどん産んで、「ああ、よう稼いだる」といって褒めてもらえるようなものです。で、会社辞めて普通の田舎へ戻ってくると、子どもは野っ原で遊んどるんです。お年寄りの人も卵を産めなくなったから野っ原に戻ってみるとどうだろうか。

ケージの中にひよこを入れて幼稚園やったり、お年寄りを入れて介護すれば、きちっとして楽なんです。でも、私は子どもが下におったら下へ先生は降りる、お年寄りが下におったら職員も下へ降りようと始めたんです。

平場になると「この卵はあの子のやつだ」ということがわからなくて、一生懸命産んでも怒られたり、逆にさぼっとる子は褒められちゃったりする。一生懸命卵を産んどる子ども別に評価されない、「こんな仕組みはいかん」といって怒られた。餌もですね、ばーっとばら撒くから、餌の取り合いになってしまいます。

でもですね、面白いことに気づきました。寝たきりの方って、普通は看護師さんとか介護士さんにお世話になるので、いつも「すみません、すみません、ありがと、すみません」

と、ずーっと言っておらなきやいかんわけです。僕は「立つ瀬がないな」と思ったんですね。でも、そういうやり方をやっていると、あちこちでもめごとが起きて、もめてる風景を見ると、「ちょっと、ちょっと」と呼ばれて、「あの子とあの子がもめとる」とかですね、「あれがけんかしとる」とかですね、生き生きしてるんですよ。私は老人ホーム始めていくときに、そういう姿を見てこんなこと思ったんです。

一人ひとりから見ると、サービスの時間は限られる

幼稚園でも、部屋の中に園児を入れてしゃべっていると、先生はいろんなことを教えたつもりでおるけども、実は、この人見てるときはこっちが見えない、この人見てるときはあっちが見れないもんですから、結局、先生が一人で30人の子どもを見ますと、6時間あっても子どものほうから見ると一人10分~12分しか見てもらえないんです。私は先生に12分しか見てもらえんならば、子どもは自然の中におく。蟻んこやでんでん虫にも給料を払わんでいいから、自然の中に遊ばせてやろうと思ったんです。

老人ホームでも職員は一生懸命やっています。でも、たとえば80人のお年寄りの方がみえますと、職員は40人で2対1です。40人おっても夜勤・夜勤明けがあり休みが毎日12人おるといった具合なので、実質は20人しかいないです。つまり、 $20 \times 8 \text{人} = 160 \text{時間}$ しか介護する時間がないんです。お年寄りの80人で割ると、2時間しかない。2時間というのはどうことかということ、おむつ替えてもらって、お風呂へ行ったり、服を着替えたり、食事介助したり、足すと2時間しかないんです。ものすごく一生懸命やっているけど、受け手のほうから見ると、「なんだ、えらそうにやっっても2時間か」と。

いろいろな人を混ぜると、「立つ瀬」ができる

在宅のヘルパーでも一緒です。今の介護保険だと、2時間しか行けないので、あとの22時間は誰も見てくれないんです。介護、風呂とか食事とか排泄とか、そういうことは本当に必要最小限のことで、22時間は孤独で不安なんです。

そんなふうに、孤独で不安で寂しいところは、今の介護保険ではみられないんです。だから私が思ったのは、ここの中に、ヤギを入れたり、鶏を入れたり、子どもを入れたり、とにかく、「混ぜて」暮らしてきた。混ぜて、混ぜてね。そうすると、どんなことが起きるかということ、いつも「すみません、すみません」といっているおばあさんが、そうするとこちらに、小さな子がぎゃーっといって走ると、怒れる、叱れるんです。「ぎゃーっ」って。

酒飲んで夜中に帰ってきた人に、朝方「ゆうべ遅かった」と叱ってる人もおる。いろんな人やものが来ると、そこに「立つ瀬」ができるんですね。



お世話になるばかりだと「すみません、ありがとう」をずっと言っていなければならず、立つ瀬がない。あちこちでもめてる風景が起きると、それをおもしろくながめることができる。

混ぜると、ルールはおおらかになる

今の社会では、結局、いろんなことを監視し、学校も成績の同じやつばっか集めてくる。中学でおんなじやつばっか集めて、また入社試験でおんなじやつばっか集めています。いつも私は言うのですが、そういう社会というのは、「立つ瀬がない」わけですよ。会社が終わってこういう老人ホームでも、介護する人とされる人、病院も看護する人とされる人になってしまえば、立つ瀬がない。

私はその意味で、残りの「22 時間をどうするか」というテーマでやってきました。22 時間の問題は難しいんですね。皆さんも最近まで勤めていた方もたくさんいらっしゃると思いますが、ISO など国際的な標準規格ができる人はいいけど、できんやつも現れてくる。そこで、売り上げで計ったり、ルールをつくるということをしていかないといけないというのが、会社であり、世の中です。それをですね、なんとか混ぜちゃうにはどうしたらいいかと考えてやってきました。

幼稚園でも、先生は、「5 歳の子はこっだけ是可以から」と5 歳すぐ教えたくくなります。逆に、「3 歳はこっだけしかできないから」と、こっだけしかやらない。だからこれはいかんと思って、5 歳と 4 歳と 3 歳を縦に混ぜてやったんです。そうすると、先生は 5 歳に合わせて 3 歳がついて来れんし、3 歳にあわせると 5 歳が面白くないという事態になります。そうすると、何をしなきゃいかんかという、ルールをおおらかにしなきゃいかなくなります。ルールをおおらかにすると、そうすると、3 歳、4 歳、5 歳が混ぜて暮らすのにちょうどいい、先生もルールもおおらかだから楽になり、のびのびと遊んでいます。



介護の必要な高齢者も若い人も一緒に住む福祉コミュニティをつくっている

大きな木から小さな木まである雑木林は死なない

入り口を一箇所すると、すぐに管理したくなるので、なるべく入り口をたくさん作りました。建物もびかびかの人工物を作ると、ちょっとでも汚すと怒られるので、なるべく自然素材で、汚い雰囲気を作るのです。そうすると、誰がちょっと汚したっていいわけです。

そして、いろんな人と暮らせば喧嘩ばかり起きますが殺伐としちゃいかんので、ルールはなるべくおおらかにしました。私も長年商社におったものですから、すごく葛藤があったんですが、でも、そうすると、今の社会の正反対の仕組みができてきたんです。

ここも雑木林ですが、雑木林っていろんな木がまざっているんですね。大きい木が立派で小さい木がいかにわけじゃなくて、みんなあるのが雑木林です。整備した土地にもういっぺん 1 万本の植樹を町中の人が出てきてみんなで植えました。そのときに、こんなマイクくらいの大きさの木を植えて、水もやらなくても、ほかっていい。すると 3 年たったら、こんなに大きくなりました。そのときに先生に言われたのが、「同じ木を植えると育たないよ」と。この木は桜だったら、隣も桜植えてはすぐに育たない。桜植えたら、隣は違う種類、そのまた隣は違う種類、違う種類。全部違う種類を植えると、命は同じものを植えたら絶えるが、そうすると死なないっていうんですね。

私はそのときに思ったのですが、今私たちがやっていることは、ある意味ではもめ事もあるトラブルもある、いっぱいあるんだけど、決して絶えることはないだろうと。



いろんな木が混ざる雑木林の中に色々な建物がちらばる

また、雑木林では、カシノナガキクイムシという、ナラ、ブナを食っていく虫が、東北地方からずっとこの10年この山を真っ赤にしてしまうということがありまして、愛知県にもついにやってきました。今年の6月に、ここにもそのムシが入ってしまいました。ここからも見えますが、あんなふうに瞬間に枯れちゃうんですね。元々ここは木を残すために作ったものですから、木が建物の中に上までずっと育っているところが何箇所もあるのですが、その大事にしてきた木が枯れてきてしまうわけです。すごくショックで、対応するのにお金もすごくかかると思いました。でも、よく考えてみると、あの木を8月20日位から切って、光がさーっと入ったら、その木の下にあった小さい木が、びゅーっと伸びてくるわけですよ。命っていうのはそんなもんかなと思いました。ある木が倒れたら、ちゃんとね違うものが生えてくる。だから、大きい木が立派でこれが悪かったかということ、そういうわけではない。ああ、そういうことかと。雑木林というのは、いつも未完成なんです。で、いつも未完成でいいというのは、すごく楽なんです。だから、私のところが今、こういうやりかたをしています。私たちの暮らしはどこかに完成に向かっていくという会社のような仕組みじゃなくていいなと思っています。



雑木林は大きな木が立派で小さな木がダメという世界ではない。違う種があることで育つことができ、死なない林になる。

時間に追われる人と、追われない人

この表は、私の今の思いを表にしたものです。世の中に、男と女とか、アメリカ人と日本人とかありますが、「時間に追われる人」「時間に追われない人」がいると思ったんです。

ここは、3、4年前まで、本当にでこぼこ道で田舎の汚いところで、今日のように皆さんがいらっしゃると、道を「なんとかせえ」って怒られてばかりいた。でも、幼稚園の子たちは、その道はうれしくてしょうがないんですね。子どもと大人は違うかと思ったら、そうでもなくて、大人の人もゆっくり弁当持ちで入ってくると、「いいとこだね」と言われるんです。ということは、急いでいる人と急いでいない人は、価値観が違うのかなと思って、この20年間、ずーっと書き溜めたことを表にしたんです。

時間に追われるほうの国の人には、とにかく目的に向かって最短距離を最高の効率で行く。しかし、幼稚園の子どもたちとかお年寄りとかを見ていると、違うんですね。幼稚園の子どもは早く片付けるんじゃないで、片付けることが先生が遅いと、それをみんなでわーわー言っただけだったり。老人ホームでも、職員がてきぱきやっているときはつまらんけども、喧嘩したり、ちょっともうまくできないことを、じーっと車いすから見とって、笑ってられるんですね。だから、遠回りすると時間に追われないから楽しいんです。

デコボコ道

ゴジカラ村のデコボコ道は、毎日たくさんの人がやってきます。

時間に追われて暮らす大人たちのほとんどの人は、「道をアスファルトにして！」と言っては、さっと来て、さっと帰ってゆきます。

ゆっくりと毎日をくらしている、幼な子やお年寄りたちは、あちらで虫を見つけ、こちらで草を摘み、あげくの果ては、汚れた水たまりに目を輝かせています。

時間に追われない国	時間に追われる国
<p>(家庭、地域、子供や老人たちのいる暮らしの場)</p> <p>遠回りすればするほど、多くの人たちが楽しめ、いつもぐちゃぐちゃしているから、どんな人にも役割や居場所ができてくる。存在することに価値がある。形容詞の世界だから、よくもめる。雑木林のように、いろいろな人がいろいろなありようで暮らしており、解決とか完成とはほど遠い。でも立つ瀬がうまれてくる</p>	<p>(学校、病院、企業、軍隊等、働く人たちのいる仕事の間)</p> <p>目的に向かって最短距離を最高の効率で行く為に、分業化、専門化してきた。能力価値を大切にするとこ。数値の世界は、追われ続ける。問題をみつけ解決したり、ものごとを完成させることをめざす。そのため不要なものは切り捨てられたりする</p>
<p>特定の目的を持たずに生活する人 のんびりしても楽しめる人 主観的世界に生きる人 A・Y・Oを大事にする人 手間暇のかかることではじめて必要とされる人</p> <p>感性で物事を見る人 もっぱら消費する人 責任が問われることが少ない人</p> <p>無駄が多く、無駄の必要な人 自然なもの(雑なもの)を面白いと感ずる人 プロセスを楽しめる人</p> <p>人をはかるものさしがある人 自分の欲しいものがある人 ほどほど、まあまあ、適当が通用する人</p> <p>正解がなくても、苦にならない人 少人数が心地よいと感じている人 いいことを入れると悪いこともついてくると感じている人</p>	<p>特定の目的に向かって働く人 きびきびと働くことをいいと思っている人 客観的であることを求められる人 I・S・Oに価値を求める人 便利な所に居場所のある人</p> <p>数字で物事を見る人 働いて収入をあげる人 すべての面で責任を負っている人</p> <p>効率性が求められる人 人工的なもの、規格品を取り扱うことが上手な人 結果が大切な人</p> <p>人をはかるものさしの少ない人 他人がいいというものを欲しがると 何でもきちんとしていないと気がすまない人</p> <p>正解はあると思っている人 大きな単位がいいと思っている人 悪いことを切り捨てるといいところになると思っている人</p>
<p>子供たちは・・・ 今を何でも楽しむことのできる能力 自分で楽しみを探ることができる能力がある 老人は・・・</p>	<p>他人からいつもテーマを与えられる (……………のため、……………のため)</p>

人生 60 年代の教育 時間に追われる国へ行くための教育

人生 80 年代の教育 時間に追われない国へ帰ってから暮らせる教育

数字の世界、形容詞の世界

だけど、会社は全部数字で評価です。何月何日までに、何トン売って、いくら売れ、いくら作れとか。軍隊も、アフガニスタンに、例えば、何月何日までに、何トンの爆弾を北緯何度、何とかにどんだけ撃てというという話で、アメリカ軍とイギリス軍は一杯飲んで打ち合わせせんでも、実践できるのです。でも、老人ホームや子どもたちと話していると、しゃべっとることは形容詞なんですね。おいしいもん食べようとか、楽しいことしたいとか、ほとんど形容詞なんです。形容詞だからいつももめるんです。

よく嫁と姑はようもめるんです。うちもようもめてますけども。例えば、孫が「薄着しとると風邪引く」って言われて、片方は「健康にいい」と言う。それは数値化するともめないです。何グラムの、何ミリのシャツを何時間着ると、体温が何度下がるという話になるとですね、もめないんですよ。男と女も形容詞だから、好きだと言っとったってね、適当だもんで、もめるんですわ。形容詞の世界はもめるんです。でも、会社はもめない。学校も能力価値、軍隊も能力の価値です。

ですが、暮らしの世界は、寝たきりの人でも大切にします。「存在価値」が大切だからです。ぜんぜん違う世界なのです。一方、会社は問題は解決できる、悪いところを切り捨てるというところになると思っています。しかし、暮らしは違うんです。

「ここに緑が一杯ありますね」と言われると、「虫がおりますよ」というんです。そうすると、「まあ虫は取ってくれ」というけども、虫を取ろうとしたら、この木を切ってアスファルトにするという話になります。両方うまくはいかないんです、暮らしは。

時間に追われない人の方が正しいとなれば


言い方を変えれば、時間に追われるほうは「仕事の間」なんです。時間に追われないほうは「暮らしの間」なんですね。暮らしの間と、仕事の間が価値観が180度違うんだけど、私が思うに、残念ながら会社と学校の訓練が長いもんで、うちへ帰っても、家庭も近所地域も、会社の価値観になっとるんですね。

愛・地球博が開催された時、この地域でも「おもてなしボランティア」の活動がありました。1800人位が登録されて、たまたま私がリーダーになってくれといわれて、担ぎ上げられちゃったんですが、そのとき言ったのは、「すいませんが、これは仕事じゃないんです」。万博は私たちが誘致したわけじゃないし、仕事じゃないからのんびりやりましょうと。それで、うまくいなくても、まあいいかと。「これが正しい」といつてけんかせずに、そういうのは間違っているでもいい。もうちょっと、会社の価値観を忘れて、もういっぺん頭を切り替えてやらんと、ボランティアってできませんよ、と。だから、合言葉は「まあ、ええじゃないか」ということでやり始めました。

私がこうしたことを通じて思ったのは、会社のとくと、子どもやお年寄りと付き合いとくととはぜんぜん違う価値観がある。また、その人たちのほうが正しいんだということです。

時間に追われない国の人ほうが絶対数が多いんだから、絶対数が多いということは、こっちが正しいんです。時間に追われている人の価値観は錯覚の世界だと解釈すると、私は、いくらでも、いつまでも、いろんな役割があるんじゃないかと思います。そのためには飲み屋も用意されますし、子どもたちもおるので、こういうところへひょっこり来てもらって、わずらわしい、嫌な人が入ってきたといった嫌なことを、若い人にも体験させてやりたいと思ってるんです。そうすると、入っているお年寄りの人は非常に楽しいと思うんです。職員とあの人のがもめとる、とかね。2時間は介護保険だけど、22時間をどうするかということが、これからの、私はテーマじゃないかなと思います。

会社の価値観を思い出されるともめます。会議とか打ち合わせで、どうしても真剣に検討して、早く結論出して、とにかく、まとめ上げようとするからです。そんなことしなくても、どちらでもいい話なんですね。でも、私はもうちょっとすると、いろんなことが多分音を立てて、変わってくるんじゃないかと思っています。

 **時間に追われている人の価値観を錯覚だと解釈すれば、人はいくらでも、いつまでも、いろいろな役割があるのではないか。**

専門から見ると「なんだ！」と言われるが

もうひとつのプリントには、「混ぜて暮らすと立つ瀬ができる。でもわずらわしい。だから、おおらかにしたい」ということが書いてあります。〈丸〉は、世の中全体には人がいっぱいいるかたち。〈四角〉は、所属している会社とか、病院とか行政です。四角の方は、今の世の中、ぎゅうぎゅう締め付けられて、そこからぼんぼんとだめなやつは出されています。そして結局、出された人が多くなっちゃったわけです。そこでいろんなことが今、起きているわけだから、もういっぺんですね、そういうところをおおらかに混ぜて、どんな人もOKということにしましょう。そうすると、ゆっくりするしかないんですね。

世の中は時間に追われない人たちの方が多くなっているわけなので、時間に追われる国の価値観を「あれは間違ってる」というふうに考えて、進んでいく世の中ができれば、そんな世界を一緒に作っていただけたら、面白いんじゃないかなと思うんですね。厚生労働省の人もここへみえるのですが、制度だとかいろんなことをいっぱい勉強してきて、もう変えるところはないというのだけど、悩んでみえるんです。

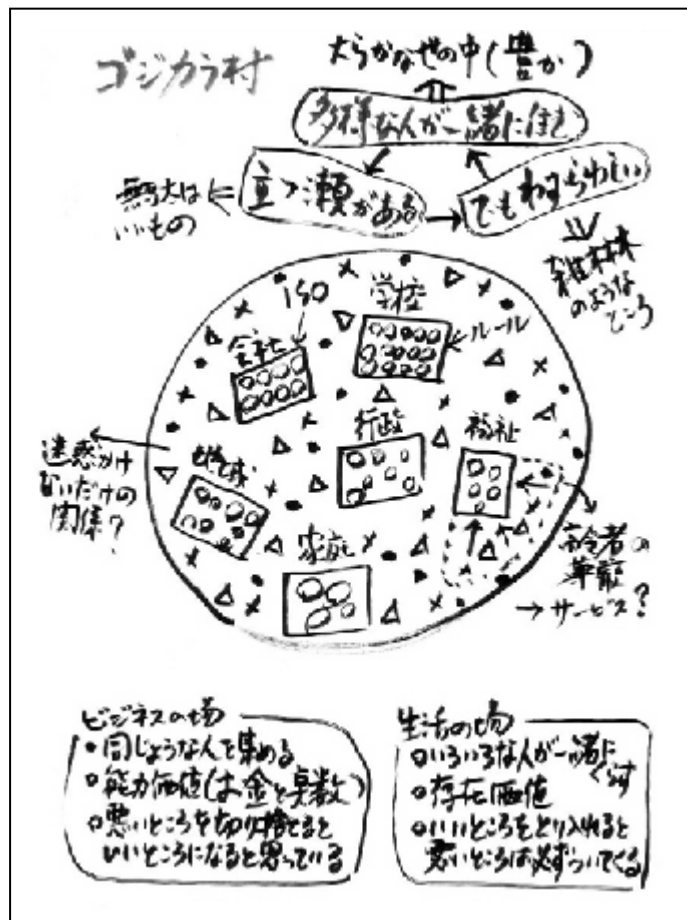
昨年、「がんばらない」の著者である諏訪病院の院長さんの鎌田實をおよびして講演をしていただきました。一泊泊まっていたのですが、後日、週刊朝日に「すごいものを見た、すごいところに出会った」といって、私どものことが見開きで載ったんですね。そ

したら、あちこちから人がきました。その中には「なんだ！」という人と、「わあ～っ！」という人と、二通りありました。この「なんだ！」と「わあ～っ！」という二通りは、見ていると、どうも、こんなことじゃないかなと思うんですね。

老人ホームをやっているプロからは「なんだ？ この老人ホーム」と思われるんです。2時間より22時間のほうを大事にしているわけだから、ここが汚れとるし、なんだかんだか、と言われるわけです。その方が幼稚園を見に行くと、「わあ～っ！」といわれるんです。結局、プロの方面のことは自分の頭の中に専門知識があるので、そこから見ると「なんだ！」という話になる。幼稚園に関心がある方はここの幼稚園を見て、「なんだ？ この幼稚園は。遊んでるだけで」と言われるが、老人ホームに行くと「わあ～っ！」と言われるんです。

でも、決してすべてが良いわけじゃなくて、仕事の部分でいく2時間では、行政がチェックされ第三者評価なんかされると、あんまりよくないと思うんです。けど、22時間に対しては、ミミズもネズミも部屋の中をたーっと走っていくし、ムカデもおるしね。生き生きしとると、私は思っとる。そこを「不潔」で片付けられちゃうんですね。でも、私はそういうところがあったらいいな、思ってやっています。

そんなことで、これをご縁によろしく願います。御清聴ありがとうございました。



質 疑 応 答

Q なぜ「ゴジカラ村」という名前なのですか？

A たぶん、ご推察のとおりで、「五時から男のグロンサン」という話です。サラリーマンだったものですから、5 時まではいつも課長に怒られていました。だから課長に怒られない、どんなことでも怒られないところに住まったら良いなと思って。

会社は 5 時までは、目的に向かって最短距離を最高の効率で行くというところですが、5 時以降はどんなことでもいいわけですから、そんなところにしたらという思いからです。

Q どこまでが「ゴジカラ村」なのですか？

A この敷地はですね、面積はですね、この敷地の中は 1 万 5 千坪くらいだと思います。ここまでといえばここまだけど、あそこまで全部といえば全部ですといった世界です。向こうに見えとるのは名古屋市の猪高緑地でこちらが私どもの敷地です。この山のすぐ頂から向こうはまた、長久手と猪高緑地なんです。でも、塀がないものですから、「これ全部そうです」と言っておるんですけどね。

Q これだけのことをやる原動力は何ですか？

A 「怒られん世の中」を作りたいということでしょうか。子どもたちにとってですね、雑木林を残して、あそこで遊ばせてやろうと思ってスタートした。そしたら、世の中が、社会が、いつもお母さんたちから言われて、何とか、この子たちが大きくなったときに怒られんというか、「どの子も OK」という世の中が来たらいいんじゃないかなと思って。

ただし、お金はね、うまく回りません。2 時間の部分に使えばいいんですけど、22 時間に使うものですから。例えば、木が枯れて、20 本ばかり倒したので 100 万円くらい掛かったんです。22 時間分には国の金も皆さんの金も出てこないんで、ワンコイン募金等でもしていくかといってるんですが。

また、ここまで進めてきたけど、どう次の世代に受け継いでいくかがやはり大変です。たぶん私では限界だなと。この調子でしゃべると、みんなですね、「仕事を適当にやりゃあいいか」と思うから。26 年目ですが、限界が来たのかなというのもあります。

介護保険も、「本当にやったとこにしか金を出さん」という時代が来ましたので、だからこそ、「こういうのが面白いよ」とか、「それは今までの価値観で時代は変わったんだよ」言っていくと面白いと思うんですが。そういう、道草の食えるところ、道草の許せる心のあるところを作っていきたいと思って、ここまでやってきました。

Q ゴジカラ村の憲法みたいなものはあるんでしょうか？

A いろいろ、今、作っています。「ゴジカラ村」の、猫びたいガーデンの計画に、そこに住んでもらう人には、「こういうことを守ってほしい」ということを、今、作っているんです。今までは「おおらかで行こう。もめるな」と言ってきたくらいですが。

これから新たに、お金があって入ってくる人には、こういうルールでお願いしたいということはおもうと思っています。「自分でやってくれ。誰もやらんよ」とか、「冷たい行政だよ」とか。そういうことを今、作っているところです。

Q いろいろな施設を一つの組織でやっていますが、どんな考え方で分散・存在させているのですか？

A 相似形のを、町のだいたい1キロ圏内くらいに1箇所くらいずつ作っています。イメージとしては、体の不自由なおばあさんが、嫁さんと車いすで行って、そこにいて、また家に帰っていくというところを作りたいと思っています。

ここの中も特別養護老人ホームなら特別養護老人ホームだけを展開した方がお金は効率的なんです。人も共有できますし。でも、私は長久手町にいながらやっていくと、「ああ、こういう問題がある。ああいうことがある、じゃあこうするのがいいか」となって、作ってくると、結局それが幼稚園になったり、制度にないものができたりというわけです。

私は、町を越えたらとたんに、利益の上がるどころだけ走って行っちゃおうと思ったんです。この町が好きで、この町に生まれてね、と思ってますので。利益が上がらんものもあるし、効率が悪いんですけども。

そんな話をここの全体会議で言ってみれば、念仏みたいに同じことをしゃべっとるわけです。すると、「さぼっとっていいか」という意見もよくあるし、「一生懸命やるやつが馬鹿を見る」という意見もやっぱりあります。だけど、特に子どもとか寝たきりの人たちを相手にする仕事というのは、考え方を変えてやるのが大事じゃないかなと思います。

でも。それをやると、賞与も0.5ヶ月減っちゃったという事態もあるし。あほらしくて辞めるという人もあります。で。今ちょうど悩んどるところなんです。誰か、経営の腕がある、労務管理もできる人がお近くにおられたら、ぜひ参加してもらって、教えてほしいんです。僕はこういうことしゃべっとることは得意だけど、金のことになると全然だめだもんで。これも、まちの達人でね。助けてもらえるとありがたいですね。全部中を見てもらえるようになっていきますので、分析できる人がいたら分析できると思いますので。

介護をしたり看護したりとかいう専門職は多いんですよ。やさしい気持ちの人や一生懸命体を使う人は多いんだけど、金となるとね、やっぱりなかなか難しいんです、もっと思い切って非情になって、正職員をぱっと切ってますね、パートをどんと入れてやればたぶん違うと思うんですが、そんなことはなかなかできないんです。